

最優秀賞

# 安全はコミュニケーションと人創りから

(関東) (株)タカダ・トランスポートサービス 宇田川 悟

穏やかな秋の日曜日、お昼少し前の商業道路。近くのドンキホーテへ昼食がてら向かう。店までは歩いて七～八分程度。休日の買い物客の車の列か、車道は少々渋滞状態。

歩道を歩いていると、渋滞中の車をぬうように反対側からこちらの歩道へ渡ろうとする初老の男性「ふわ～」っと体が浮いたと思った瞬間、初老の男性はまるで人形のように、手・脚があってはならない方向へ折れ曲がった状態で地面へ叩きつけられた。乗用車にはねられたのだ。慌てて駆けよる運転手や近くの人々、「大丈夫ですか！」の声にも何の返答も無い。手には小さな花束を握りしめていた。

もし、この事故を起こしてしまったのが私だったら、事故を起こした車両が私の会社の車だったら……。あってはならないことだが、絶対にあり得ないとも言い切れない。想像するだけでも寒気を覚える瞬間だった。

運送業へ転職し早一五年、途中二年程寄り道もしたが、今また「安全」を強く意識する運送業の安全を管理する部署にいる。

あの事故を目の前で目撃してから、前にも増して安全やコンプライアンス遵守の意識が強くなったと感じる。事故は毎日、毎日、何処かで起きている。数多い事故の中の一件が当社のものでない保証はどこにもない。

近年、車両の安全性は劇的に改善し車両自体が起因の事故は激減していると聞く。たまには故障や間違いを起こすこともあるのだろうが、事故はそのほとんどが「人」のエラーによって発生してしまう。

私たちが行っている運送事業は人間と機械が共同して目的を達成するためのシステム（ヒューマン・マシン・システム）であると、あるセミナーの席で教わった。機械（車両）がほとんどエラーを発生しなくなった現在、人が自分に割当てられた仕事（安全確認・ルール遵守・判断・行動）に失敗することにより事故の多くは発生していると考えるのが妥当であろう。その人の起こす失敗（ヒューマンエラー）に注視しなければ事故の防止や削減を図るための根本解決とは至らない。

人は失敗する生き物と考えれば、その失敗を減らすため・無くすためにはどのような策を講じるかが必要不可欠となる。

今までの当社の事故対策を見た場合、事故がなぜ起きたかには注視をしていたが、その背景にある

様々な要因については見逃してしまっていたように感じる。

今、現場に強く説いていることは、家族ともいえる従業員の日々の状態を把握し、ちょっとした異常に気づける体制を構築すること。特に一度外へ出てしまったら、ほぼ終日帰ってこない運転者に対しては数少ないふれあえる機会（時間）として点呼を最大限活用し、全精力を点呼に注ぎ、運転者の観察者・運転者とのコミュニケーターとしての立ち位置を確立すること。

昨年三年ぶりに運行管理者試験の合格者が七名出て、その合格者に対しての実践研修にこのコミュニケーターの説明を行った。

人がヒューマンエラーを起こす以上、人に対しての結びつきの強化、コミュニケーションアップがなされなければ、いかに声を荒らげ「安全」を叫ぼうが心には届かない。

人の耳に届くように人の心に響くようにそのためには心と心の結びつきを、人の心への働きかけをもっともっと強くしなければならない。普段、通常、いつも、がわかって、はじめて普通ではない様分かる。

まだまだ事故は減っていない。しかしもっともっと減らすことは必ずできる。

会社が・従業員が・家族が、悲しい思いをしないように規則・ルールを教え、その規則・ルールがなぜ必要なかを理解させ、納得してもらえるまで継続的に根気よく諭し、安全文化の構築を目指していきたい。

毎年行っている従業員知識研修の今期のテーマは

「事業用トラックドライバー安全指導」～副題：プロとしての自覚を備え、社会に貢献できる、無事故ドライバーを目指す～

今期は管理者だけでなく一般の内勤者や倉庫作業者そして最もこの研修テーマを必要としている全ての運転者のみんなに対して安全を一人一人が考え、みんなで共有する時間を創れた。

この会社から与えて頂いた貴重な時間を最大限活かし、運送業の従業員として一番大切なのが安全であること。映像を交え、異なった階層の従業員を混ぜこぜにグループディスカッションし、参加者全員が自ら考え、その想いを声に出し、安全と言う目的に一丸となって取り組める。一人一人の意識が同じ方向に向く事が出来る。コミュニケーションの場として有意義な時間として共有したい。